

【 目 的 】 文化芸術がより一層市民に親しまれ、心豊かな暮らしを支えるとともに、札幌の様々な資源をフルに活かした次代の新たな産業やライフスタイルを創出し、その魅力を世界へ力強く発信していくために、「創造都市さっぽろ」の象徴的な事業として「国際芸術祭」を開催する。
具体的な目的は以下の4点とする。

- ①**文化芸術に満ちた札幌独自のライフスタイルの創出**
質の高い最先端の文化芸術に触れる多様な機会を提供し、市民一人ひとりが持つ創造性を生き活きと発揮できる札幌独自のライフスタイルの創出を図る。
- ②**札幌らしい文化芸術を支える人づくり**
国内外のアーティストとの交流を促すことで地元のアート人材の啓発・育成を支援しながら、札幌らしいアートシーンの活性化を図る。
- ③**文化芸術の力による札幌の魅力再発見と新たな価値創造**
アートを媒介にしながら、北国固有の気候風土や歴史・伝統文化、豊かな自然環境、都市の資源といったものをさまざまな切り口で、札幌の潜在的な魅力として引き出し、多様な価値を生み出す。
- ④**「創造都市さっぽろ」を牽引する多様な人材の集積・交流**
世界の文脈に通ずる札幌独自の最先端アートを創造・発信することで、文化芸術面での世界における札幌のプレゼンス（存在感）を向上させ、創造都市さっぽろを牽引する多様な人材の集積・交流を図る。

【期待される効果】 文化芸術は、創造的な経済活動の源泉となるとともに、持続的な経済発展の基盤となりえるものであるため、3つの効果を上げることを目指す。

- ①**まちづくりの活性化**
幅広い文化芸術活動を市民とともに展開することで、個人としての誇りやアイデンティティの醸成がもたらされ、地域の活性化や賑わいを創出するきっかけとなる。
- ②**観光の振興**
文化芸術の力で札幌の魅力を引き出して国内外に発信するとともに、札幌が有する魅力を体験できる機会を提供し、交流人口の増加につなげる。
- ③**経済の振興**
市民と企業・アーティスト等との多様な交流による創造性の融合を図りながら、新たなデザイン（仕組み）を生み出す創造的活動による新産業の創出や既存産業の高度化を誘発していく。

【開催年】 十分な準備期間（2年間）をとり平成26年を初回開催とする。

【開催スパン】 十分な準備期間を取るとともに、潮流の変化の激しい現代アートの文脈をタイムリーに伝えるために、3年ごとの定期的な開催（トリエンナーレ）を目途とする。

【開催時期】 札幌の過ごしやすい冷涼な夏の気候や様々なイベントとの連携により多くの市民・道民・観光客が来場しやすい夏を基本とするが、冬の魅力の活用もあわせて検討する。

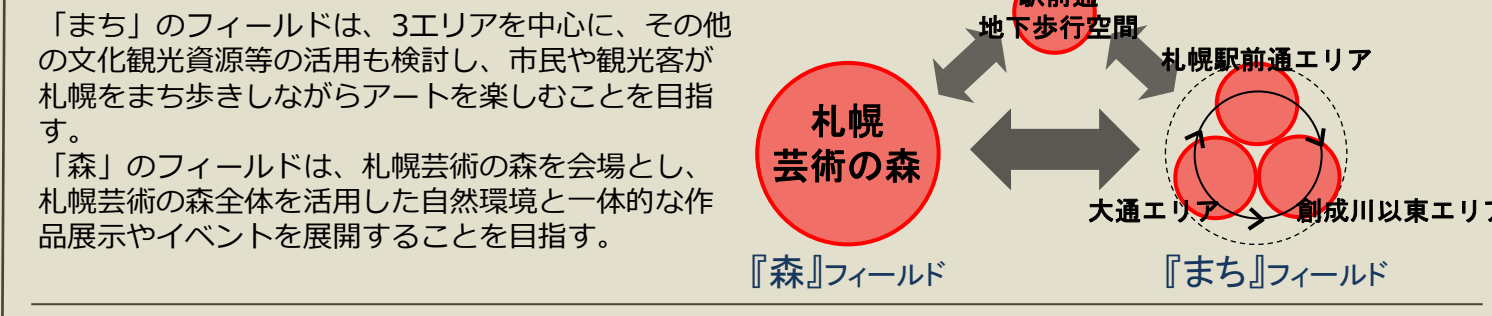
【開催期間】 他の芸術祭の開催期間や収支のバランスを検討しながら、70日間程度を想定する。

【基本方針】 札幌が有する「都市」の魅力と「自然」の豊かさ、この二つの魅力が札幌の資源であることから、「都市と自然」を基本方針とし、今後の開催テーマは、実施主体及び芸術監督等と協議しながら検討する。

【展開方針】 多くの市民や観光客が親しみを持ち、定期的かつ継続的な芸術祭となることを目指すため、5つの展開方針を設定する。

- ①**多様な文化芸術分野と複合した世界最先端の現代アート展の実施**
国際的な現代美術を中心にしながら、音楽やパフォーマンスなど多様な文化芸術分野と複合した展覧会等を文化芸術関連施設や街中の様々なパブリックスペース、自然環境を活用して実施する。
- ②**既存の文化事業との連携**
さまざまな既存文化事業と連携し、芸術祭の広がりを作る。
- ③**札幌の魅力を体験する観光イベントとの連携**
芸術祭の開催期間中に実施される観光イベントと連携し、市民や観光客が札幌の魅力を体験できるようにする。
- ④**民間ギャラリーやアート関連団体との連携による企画展**
民間ギャラリー等による企画展やアートフェアと連携し、より広がりのある芸術祭を目指す。
- ⑤**メディアアーツの展開**
札幌が有するコンテンツ企業の集積やクリエイターの育成施設などの豊富な資源を活かすことができるため、デジタル技術と芸術を融合した新しい芸術表現であるメディアアーツを展開する。

【会場】 基本方針に基づき、大きく「都市=まち」と「自然=森」の2つのフィールドで構成する。



【事業規模】 公的助成金等の活用や民間活力の導入等を確保しつつ、**3億円程度**を見込む。

【実行組織】 産学官民協働で「創造都市さっぽろ・国際芸術祭実行委員会」を設立、札幌市観光文化局に新設した「国際芸術展担当部」が事務局を担当する。